

## 第2章 松戸市の現状と課題

---

- 1 松戸市の現状
  - (1) 松戸市の健康の現状
  - (2) 松戸市の農業の現状
  - (3) アンケート調査結果
- 2 第2次計画の評価と課題
  - (1) 指標とした項目の評価
  - (2) モデル事業
  - (3) モデル事業の評価

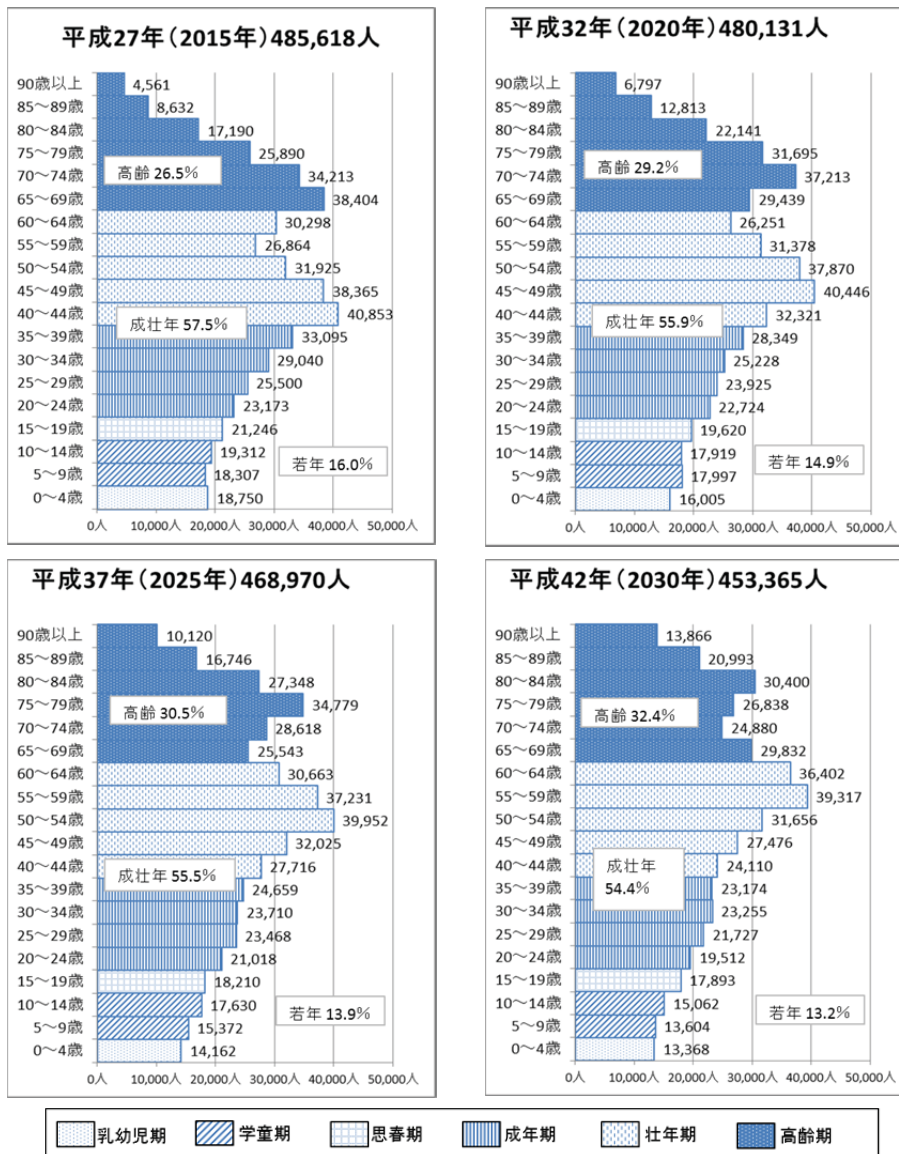
# 1 松戸市の現状

## (1) 松戸市の健康の現状

食育は、健康との関係が大変深く、基本的な事項を記載します。

### ア 人口構成

本市の人口は、平成 29 年 10 月 1 日現在で 493,883 人となっています。現在の高齢期人口は全国と比較し低くなっていますが、平成 37 年には高齢期人口が 30%を超える推計となっています。

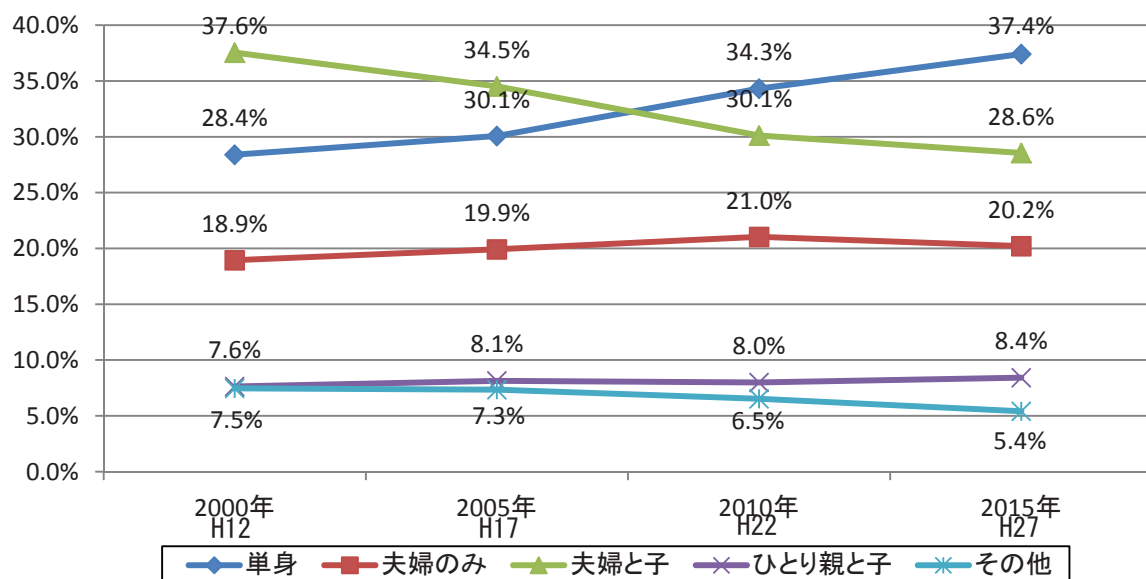


「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

(<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/i/shicyoson13/t-page.asp>)を加工して作成

## イ 松戸市の家族類型別一般世帯割合

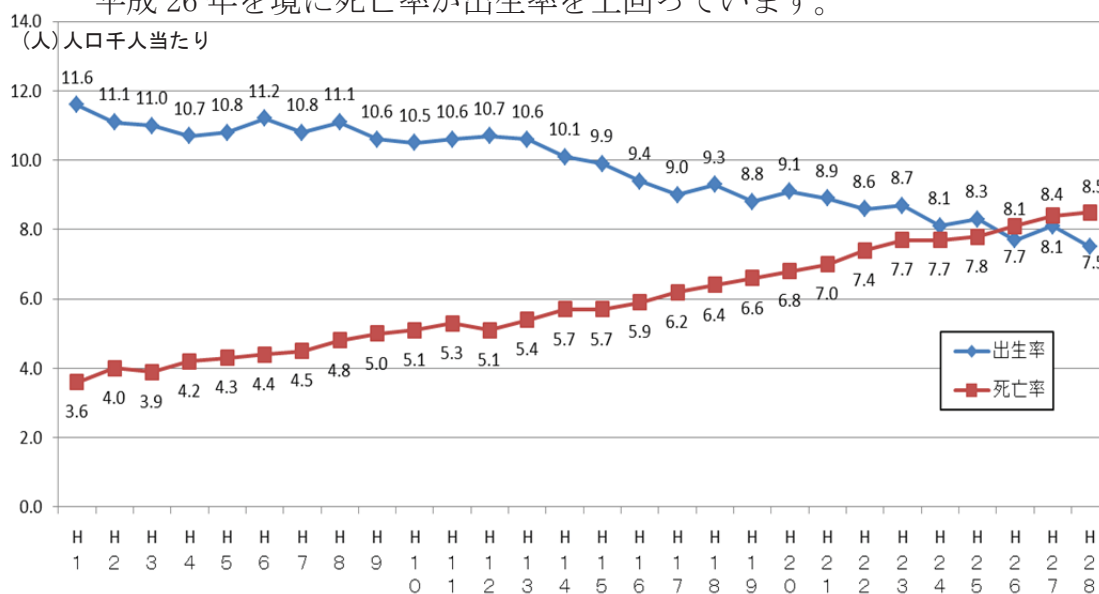
平成 20 年ごろから単身世帯が一番多くなっています。



※平成 13、18、23、28 年度 松戸市統計書(国勢調査)28. 世帯の家族類型(16 区分)別一般世帯数より作成

## ウ 松戸市の出生率・死亡率の推移

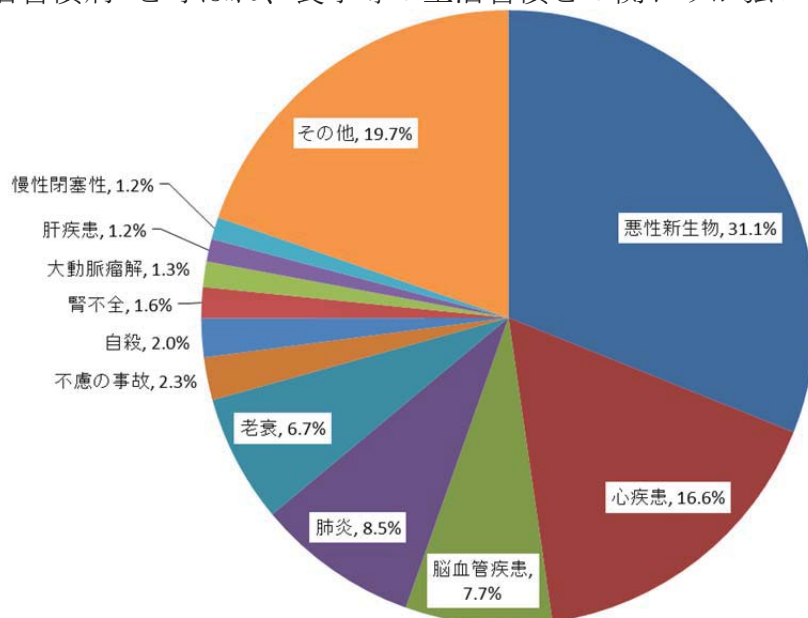
平成 26 年を境に死亡率が出生率を上回っています。



※平成元年～平成 28 年度千葉県衛生統計年報(人口動態調査)第 2-1 表千葉県・保健所・市町村別人口動態総覧より作成

## エ 松戸市民の主要死因

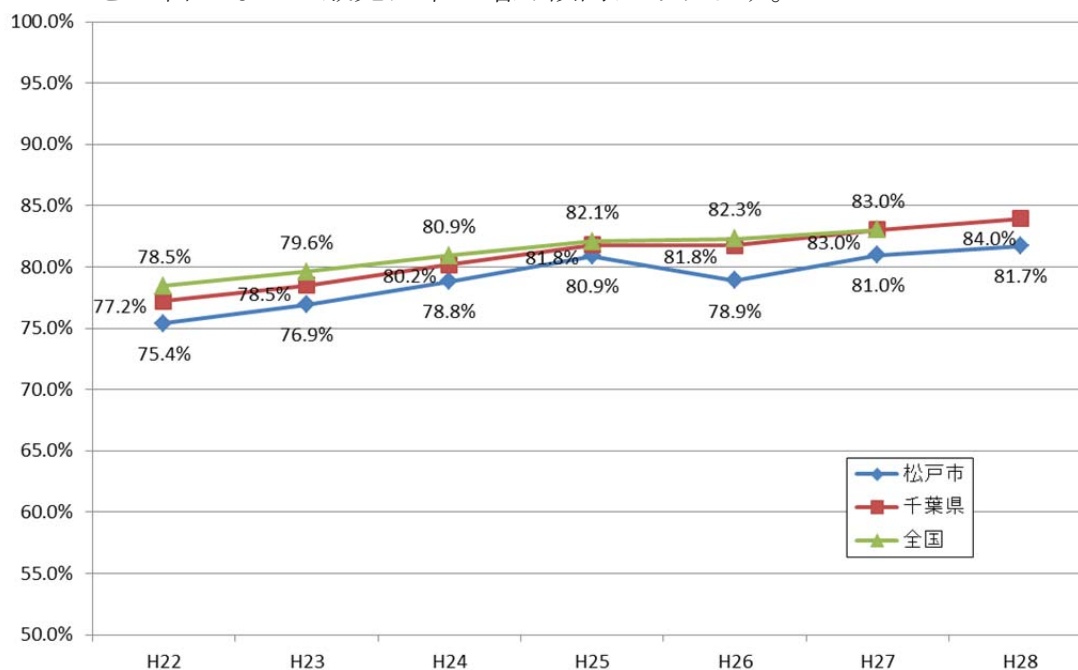
悪性新生物(がん)、心疾患、脳血管疾患で約6割を占めます。これらは生活習慣病\*と呼ばれ、食事等の生活習慣との関わりが強いとされています。



※平成 28 年度 千葉県衛生統計年報(人口動態調査)第 7-3 表死亡数、死亡の場所、死因(11 位)・市町村別より作成

## オ 3 歳児のむし歯のない児童の割合(千葉県歯科保健実態調査の結果)

むし歯のない 3 歳児は年々増加傾向にあります。



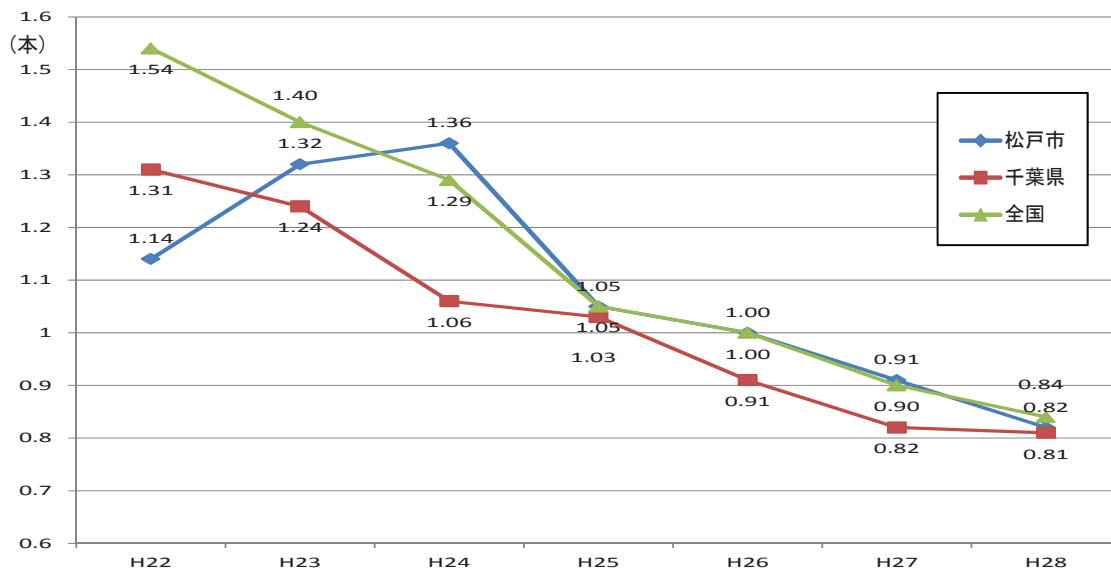
※平成 22 年～平成 28 年度千葉県市町村歯科健康診査(検診)実績報告書より作成

全国データは平成 22 年度～平成 27 年度 地域保健・健康増進事業報告(地域保健編)市区町村表による

### カ 12歳児の平均むし歯本数(千葉県児童生徒定期健康診断結果)

本市の水準は、近年では全国、千葉県と同水準となっています。

料理をよくかんで食べることで、健康な歯の維持につながります。



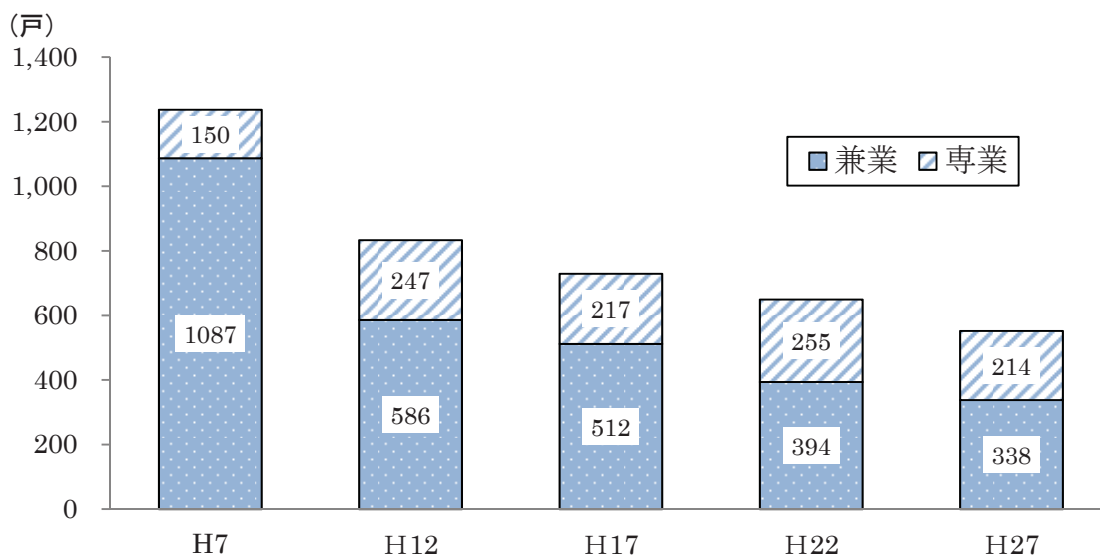
※平成 22 年～平成 28 年度 千葉県児童生徒定期健康診断結果 4(1)永久歯の一人当たり平均むし歯数より作成

## (2) 松戸市の農業の現状

本市は都心から 20 km 圏内にあり総面積約 61.38 k m<sup>2</sup>、農地面積 565ha、農業者数 1,584 人を数え、野菜・果樹の生産地として都市型農業を行っています。

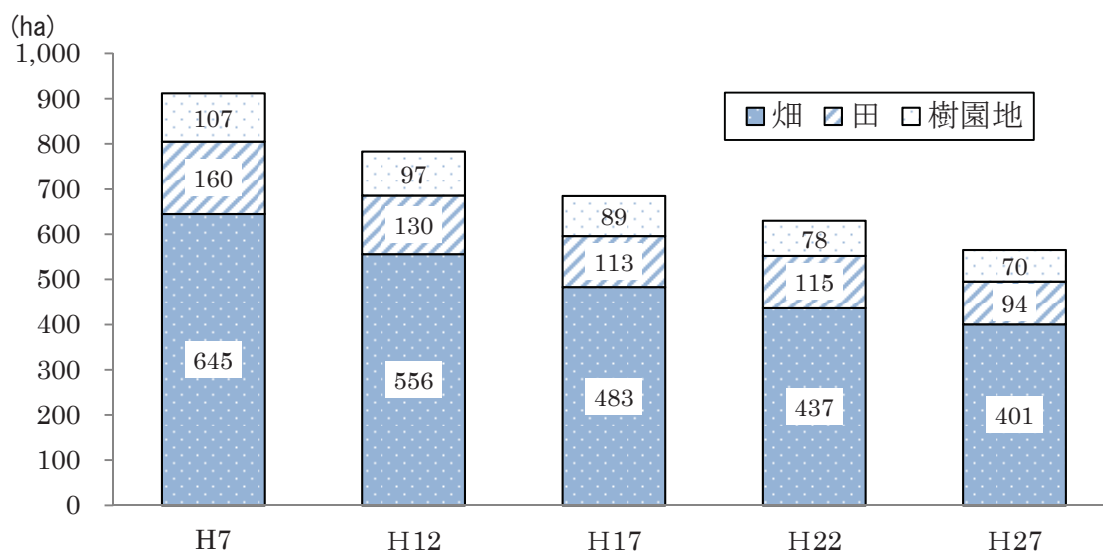
### ア 農業の現況 (2015 年農業センサス)

#### (ア) 農家戸数



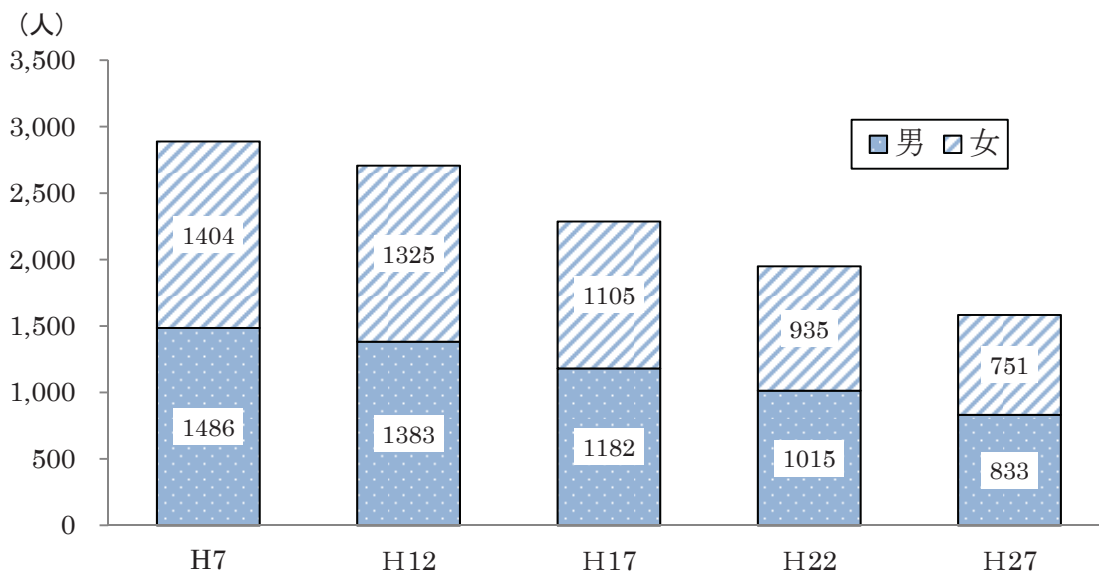
農家戸数は、平成 7 年には 1,237 戸であったものが平成 27 年には 552 戸となっており、55%の減少となっています。

#### (イ) 経営耕地\*面積 (ha)



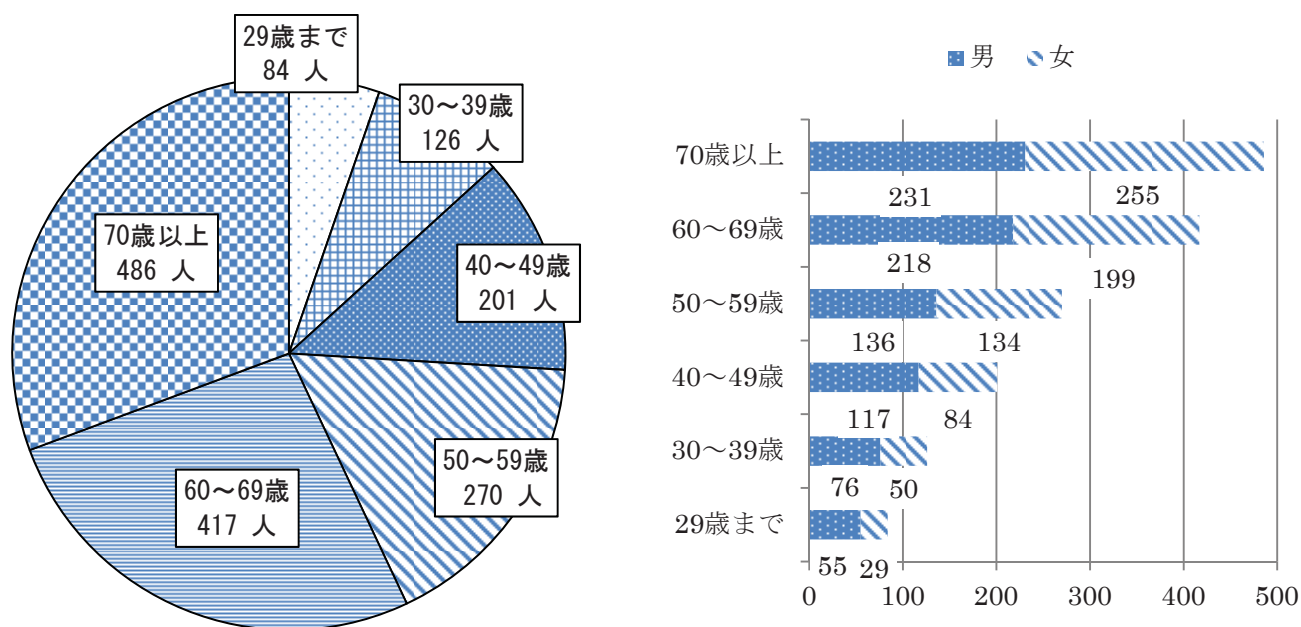
経営耕地\*面積は、平成 7 年には 912ha であったものが平成 27 年には 565ha となっており、38%の減少となっています。

(㊦) 農業従事者数



農業従事者は、平成7年には2,890人であったものが平成27年には1,584人となっており、約45%の減少となっています。

(㊧) 年齢層別農業従事者数 (H27)



年齢層別農業従事者数は、70歳以上が486人で農業従事者全体の約31%、60歳以上を含めると903人で約57%となります。

## イ 特産(「まつどの農業」より)

### (ア) あじさいねぎ

小金地区では江戸時代から長ねぎの栽培が行われていましたが、昭和50年頃から重くて収穫作業が大変な長ねぎの代わりに、軽くて高く売れる葉ねぎの栽培が盛んになりました。「あじさい寺」の名で有名な本土寺にちなんで「あじさいねぎ」と名付けられました。葉色が濃く、白身にも冴えがあり、品質の良いものが選び出され「あじさいねぎ」として出荷・販売されています。



### (イ) 矢切ねぎ

矢切地区でねぎが本格的に栽培されるようになったのは、明治3、4年頃といわれています。今の東京都江東区砂町から「千住ねぎ」の種を譲り受け栽培したところ、江戸川が洪水で氾濫したときに上流から運ばれた砂と土がちょうどよく混ざり栽培に適したことから、年々作付けも増えて明治12、13年頃からは市場へ出荷されるようになりました。



### (ウ) 二十世紀梨

千葉県で梨の栽培が始まったのは江戸時代で、今の市川市八幡からといわれており、これが周辺地域に広がり松戸でも栽培されるようになったようです。「二十世紀梨」は明治21年に八柱村(今の松戸市大橋)の松戸覚之助少年(当時13歳)が親類の家のごみ捨て場で偶然見つけた苗木を育て、10年後に収穫に成功したものです。この梨は、色が白く上品でおいしいと評判になり全国に広がり始めました。そして、「二十世紀に王座をなす梨になるであろう」という意味で「二十世紀」と命名されました。今では、本市で作られている梨の種類は、幸水、豊水、新高がほとんどで二十世紀梨は少ししか作られていませんが、松戸市梨研究会を中心に二十世紀梨復活の試みを始めています。「二十世紀梨」というと鳥取県が有名ですが、そのルーツは松戸です。





おいしい  
(エ) 樋野口覆下こかぶ

樋野口でかぶが本格的に栽培されるようになったのは、大正13年頃といわれており、今の東京都葛飾区で全盛を誇っていた「金町覆下こかぶ」の種を譲り受け栽培したのが始まりです。その後、栽培技術の改善と品種の改良に努力した結果、「樋野口覆下こかぶ」という優良品種が生まれ、「全国農産物品評会」において農林水産大臣賞を三度受賞しています。

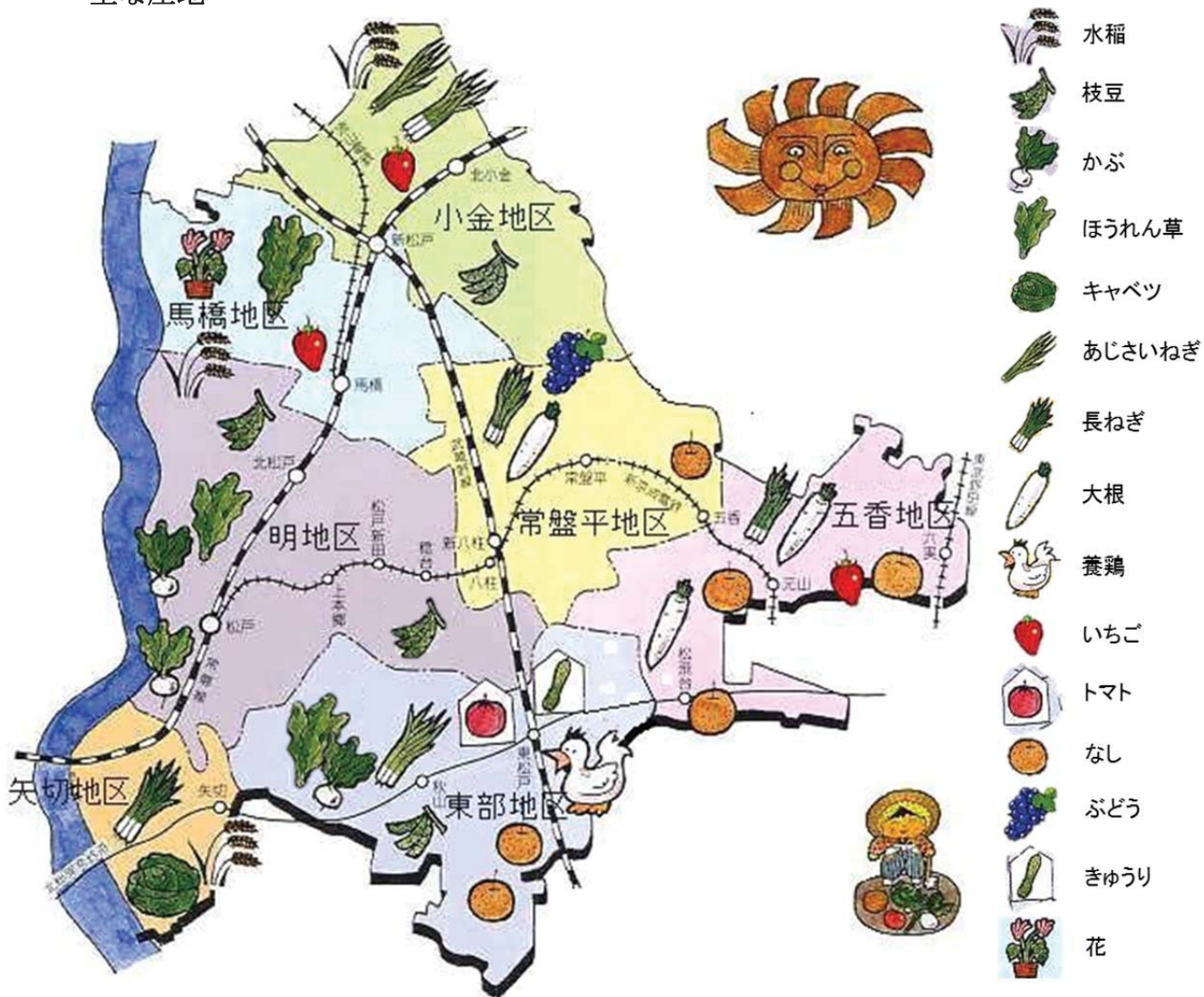


(オ) 松戸えだまめ

本市は、県内でも有数の枝豆生産地であり、市内全域で、茶豆系、青豆系の多品種が積極的に栽培されております。ハウス栽培では、早ければ4月下旬頃から出荷が始まり、11月上旬頃まで、期間を通して安全・安心で新鮮な枝豆が栽培されています。平成29年に松戸市農産物ブランド化推進協議会で「松戸えだまめ」推奨マークが制定されてからは、一定の要件を満たした農家は、このマークを出荷用袋に貼付することができ、松戸市産の枝豆を市内外へPRしてブランド化を推進しています。



主な産地



松戸市都市農業振興協議会パンフレットより

みのりちゃん  
とは

市では松戸産農産物にシンボルマークに「みのりちゃん」、キャッチフレーズに「松戸いきいき地場野菜・果実」を定め、松戸産農産物のブランド化を推進しています。また、併せて「地産地消\*」も推進しています。シンボルマークなどは一定の要件を満たした農産物に表示されます。



主要産地が松戸の千葉県農産物全国ランキング(平成 27 年)

全国第 1 位

| 品目            | 産出額    | 全国に占める割合 | 上位県   |       | 県内主要産地   |
|---------------|--------|----------|-------|-------|----------|
|               |        |          | 第 2 位 | 第 3 位 |          |
| ねぎ            | 209 億円 | 13%      | 埼玉県   | 茨城県   | 松戸、柏、山武  |
| えだまめ<br>(未成熟) | 52 億円  | 13%      | 山形県   | 埼玉県   | 松戸、野田、船橋 |
| かぶ            | 39 億円  | 29%      | 埼玉県   | 青森県   | 松戸、柏、東庄  |

全国第 2 位

| 品目   | 産出額    | 全国に占める割合 | 上位県   |       | 県内主要産地  |
|------|--------|----------|-------|-------|---------|
|      |        |          | 第 1 位 | 第 3 位 |         |
| だいこん | 132 億円 | 13%      | 北海道   | 青森県   | 銚子、松戸、旭 |

全国第 6 位

| 品目   | 産出額   | 全国に占める割合 | 上位県   |       |       | 県内主要産地   |
|------|-------|----------|-------|-------|-------|----------|
|      |       |          | 第 1 位 | 第 2 位 | 第 3 位 |          |
| こまつな | 19 億円 | 6%       | 埼玉県   | 茨城県   | 福岡県   | 千葉、船橋、松戸 |

千葉県農林水産業の動向-平成 29 年度版-より

千葉県農業産出額上位 10 品目(平成 27 年)

|      | 品目                       | H27<br>産出額 | 全国<br>に占<br>める<br>割合 | 全国<br>順位 | 上位県        |            |            | 県内主要産地           |
|------|--------------------------|------------|----------------------|----------|------------|------------|------------|------------------|
|      |                          |            |                      |          | 第 1 位      | 第 2 位      | 第 3 位      |                  |
| 1 位  | 米                        | 567 億円     | 4%                   | 7 位      | 新潟県        | 北海道        | 秋田県        | 香取、旭             |
| 2 位  | 豚                        | 490 億円     | 8%                   | 3 位      | 鹿児島県       | 宮崎県        | <b>千葉県</b> | 旭、香取             |
| 3 位  | 鶏卵                       | 427 億円     | 8%                   | 2 位      | 茨城県        | <b>千葉県</b> | 鹿児島県       | 君津、銚子            |
| 4 位  | 生乳                       | 243 億円     | 3%                   | 5 位      | 北海道        | 栃木県        | 熊本県        | 南房総、千葉           |
| 5 位  | ねぎ                       | 209 億円     | 13%                  | 1 位      | <b>千葉県</b> | 埼玉県        | 茨城県        | <b>松戸</b> 、柏、山武  |
| 6 位  | かんしょ                     | 191 億円     | 19%                  | 2 位      | 茨城県        | <b>千葉県</b> | 鹿児島県       | 香取、成田            |
| 7 位  | トマト<br>(ミニト<br>マト含<br>む) | 149 億円     | 6%                   | 4 位      | 熊本県        | 北海道        | 愛知県        | 旭、白子、一宮、<br>八街   |
| 8 位  | 日本なし                     | 141 億円     | 18%                  | 1 位      | <b>千葉県</b> | 茨城県        | 鳥取県        | 市川、白井、<br>鎌ヶ谷    |
| 9 位  | だいこん                     | 132 億円     | 13%                  | 2 位      | 北海道        | <b>千葉県</b> | 青森県        | 銚子、 <b>松戸</b> 、旭 |
| 10 位 | ほうれん<br>そう               | 127 億円     | 13%                  | 1 位      | <b>千葉県</b> | 埼玉県        | 茨城県        | 野田、柏、船橋          |

千葉県農林水産業の動向-平成 29 年度版-

### (3) アンケート調査結果

調査結果については、別冊報告書で詳細な分析を行っています。なお、指標及び目標値に係る集計結果については、本報告書に掲載しています。

#### ア 調査概要

##### (ア) 市民アンケート調査

調査地域：市内全域

調査対象：市内在住の20歳以上の市民3,000人

抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出

調査方法：郵送調査法(自記式)

調査期間：平成28年7月1日～7月31日

##### (イ) 大学生アンケート調査

調査対象：千葉大学園芸学部、聖徳大学児童学部、日本大学松戸歯学部、  
流通経済大学経済学部・流通情報学部の学生

抽出方法：各大学、100人以上で依頼

調査方法：各大学において留置調査法(自記式)

調査期間：平成28年7月1日～7月31日

#### イ 調査結果

##### (ア) 市民アンケート調査

調査票送付数：3,000人

回収数：1,288人

回収率：42.9%

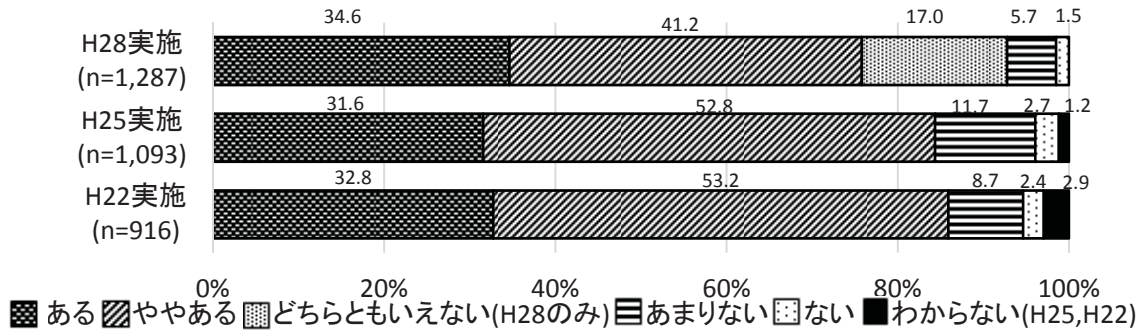
##### (イ) 大学生アンケート調査

回収数：674人

## ウ 市民アンケート調査結果抜粋

### (ア) 食育に関心を持っている割合

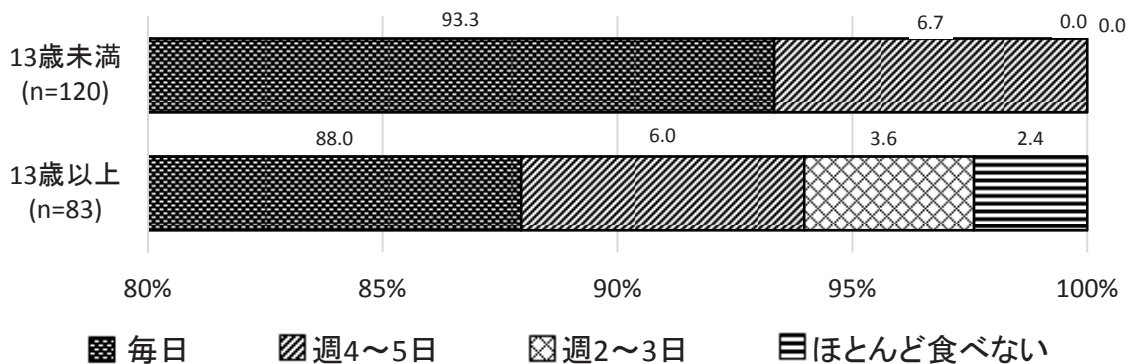
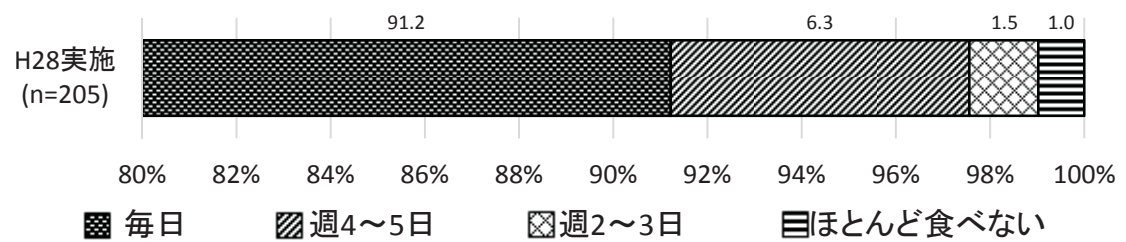
食育への関心は、4分の3が肯定的な回答をしている



### (イ) 朝食を欠食する子どもの割合(1週間のうち、朝食を食べる回数を調査)

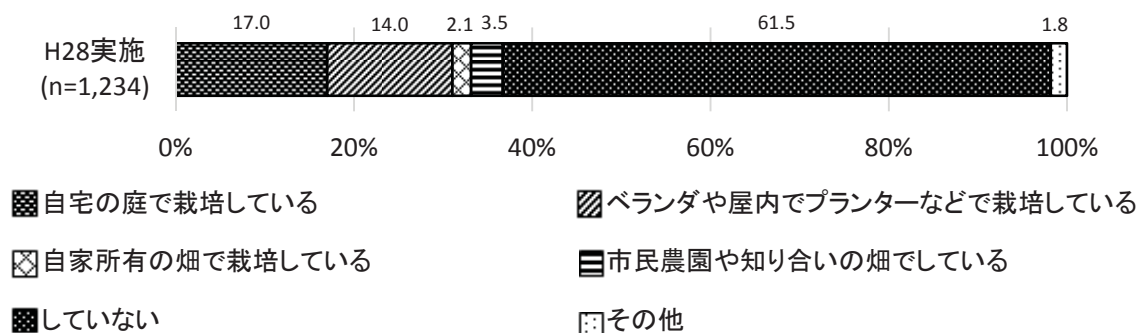
全体の9割以上が毎日朝食をとっており、「ほとんど食べない」との回答は1%と少ない割合であるが、13歳以上になると毎日とっている割合は9割を下回り、ほとんど食べない割合も増えている。

(※回答は小学生から高校生までの子どもがいる保護者、6歳から13歳未満の子どもと13歳から18歳の子どもで比較を行った。)



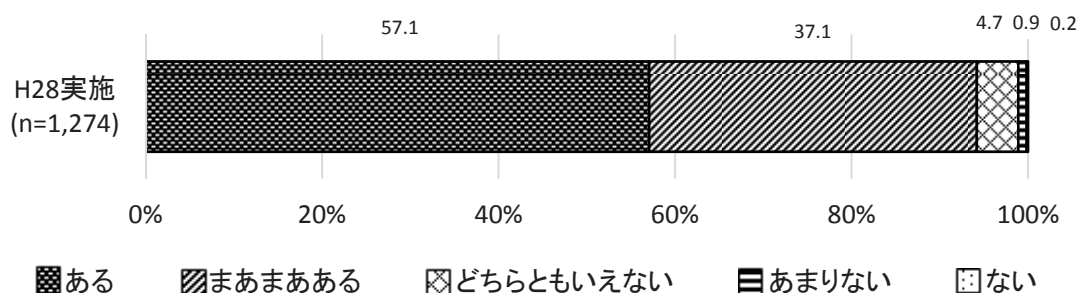
(㉞) 農作業体験を趣味とする市民の割合

野菜や果物を栽培していないという回答者が6割以上を占めているが、第2次計画策定時アンケートの類似の質問との割合に大差はない。



(㉟) 食の安全確保に関心のある市民の割合

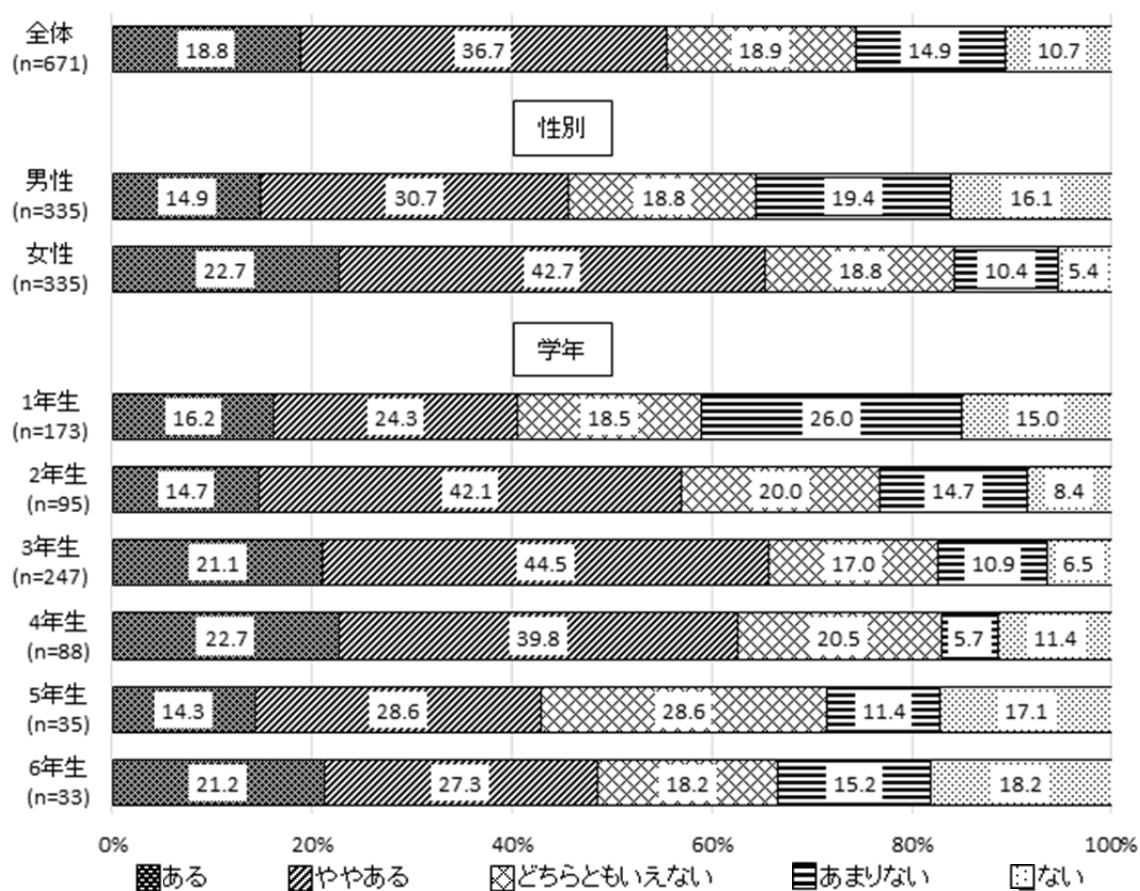
関心が「ある」と「まあまあある」を合わせると9割を超えている。



## エ 大学生アンケート調査結果抜粋

### (ア) 食育に関心を持っている大学生の割合

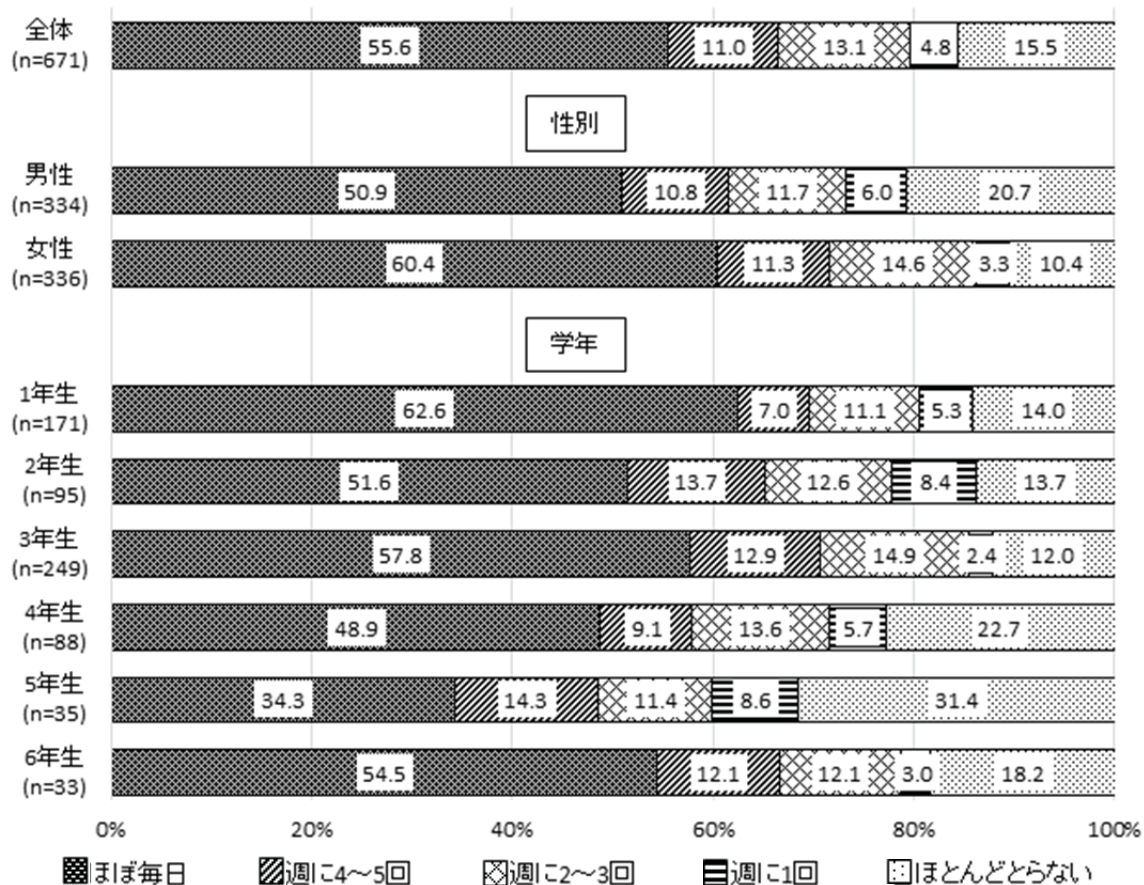
「ややある」を含めると、全体の半数以上が食育に関心を示しており、男女別では女性の関心が高い。学年別では、3年生まで次第に高くなっていく。





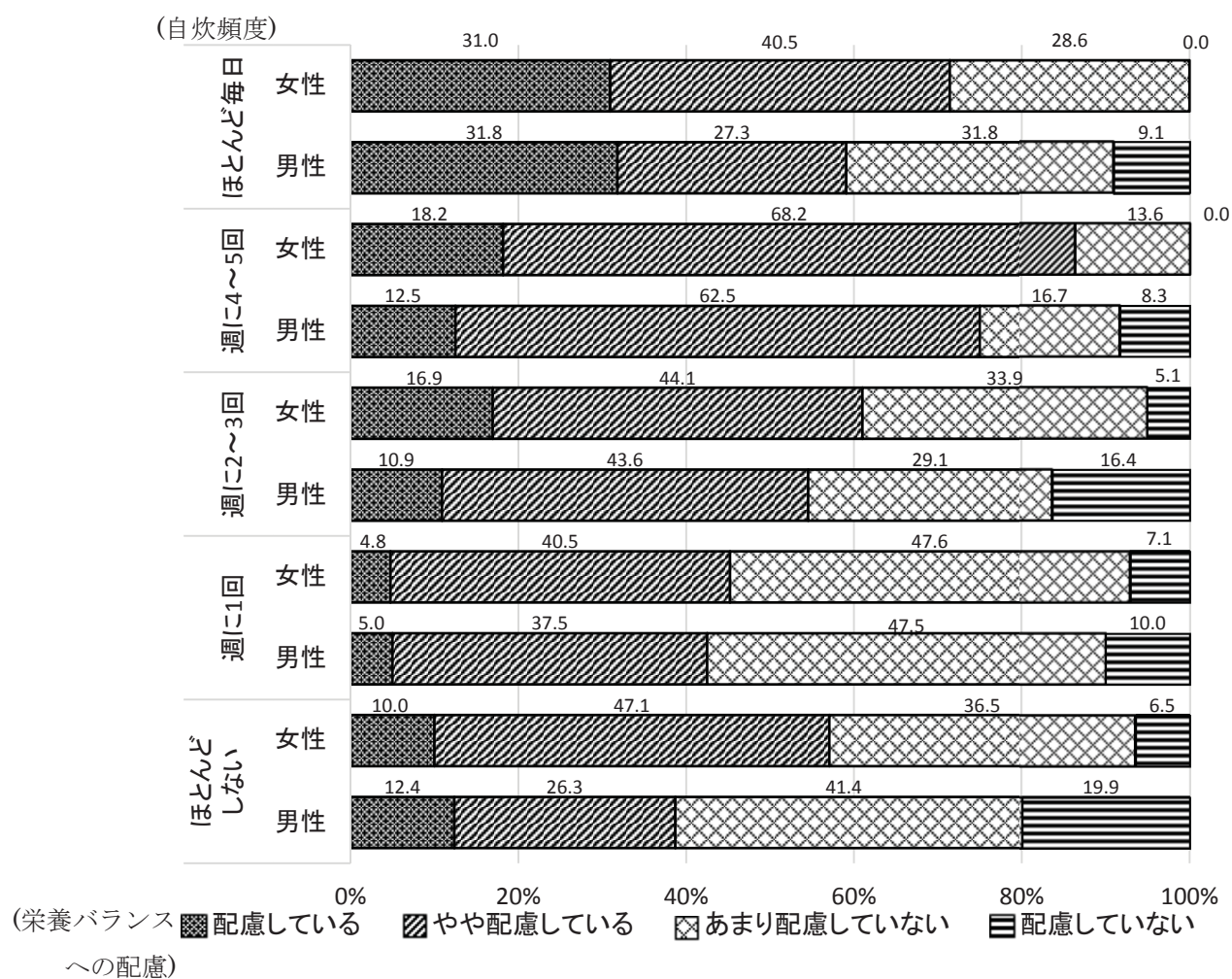
(イ) 朝食をとっている大学生の割合

全体の半数以上が、ほぼ毎日朝食をとっているが、男女別では女性で6割と高い。また、学年が進むとその割合は低下する傾向にある。



(ウ) 自炊頻度×栄養バランスへの配慮×性別

自炊頻度と栄養バランスへの配慮および性別との関係については、総じて、女性の方が栄養バランスへの配慮を行っていることと、自炊頻度が高いほど栄養バランスへの配慮も高まる傾向が読み取れる。



## 2 第2次計画の評価と課題

### (1) 指標とした項目の評価

第2次松戸市食育推進計画では、4つの指標と目標値を設定し、計画を推進しました。

目標値を達成した項目は「食育のうち、食の安全確保について関心のある市民の割合の増加」1つでした。その他の項目については、目標値には届かず、前回調査時と同等または数値が低下した状況となっています。

|   | 項目  | 第2次計画策定時の<br>数値(H26) | 目標値        | 現状値          | 達成<br>状況 | 現状値の出典                   |
|---|---|----------------------|------------|--------------|----------|--------------------------|
| 1 | 食育に関心のある<br>市民の割合の増加                      | 83.6%                | 90%        | <b>75.8%</b> | C        | 「食育」に関する<br>市民アンケート(H28) |
| 2 | 朝食を欠食する子<br>どもの割合の減少                      | 小学2年生*<br>(H24)1.0%  | 0%を<br>目指す | <b>1.2%</b>  | C        | 食事に関するアンケート<br>調査(H27)   |
|   |   | 小学5年生*<br>(H24)2.4%  |            | <b>3.4%</b>  | C        |                          |
|   |   | 中学2年生*<br>(H24)4.8%  |            | <b>4.9%</b>  | C        |                          |
| 3 | 農作業体験を趣味<br>とする市民の割合<br>の増加               | 36.6%                | 50%        | <b>36.6%</b> | C        | 「食育」に関する<br>市民アンケート(H28) |
| 4 | 食育のうち、食の<br>安全確保について<br>関心のある市民の<br>割合の増加 | 41.9%                | 90%        | <b>94.2%</b> | A        | 「食育」に関する<br>市民アンケート(H28) |

※第2次計画策定時の数値のうち、朝食を欠食する子どもの割合の数値は、食事に関するアンケート調査(H24)より

#### 【達成状況】

A:達成できた B:達成できなかったが改善した C:達成できなかった

## (2)モデル事業

本市では、第2次松戸市食育推進計画の3つの基本目標を達成するためにモデル事業を実施しました。

基本目標

① 食の大切さを見直し、のぞましい食習慣を身につける

② 地域でとられる食材の魅力や食の成り立ちを学ぶ

③ 選食力\*を養い、よくかんで食べ、心も体も健やかに

### 1 食育かるた

食に関する知識を高めてもらうことを目的に「食の大切さ、のぞましい食習慣」「松戸でとられる食材の魅力」「選食力やよくかんで食べる」といったことなど、食に関連した読み札を松戸市内在住、在勤者から募集し、応募があった882作品の中から34句を聖徳大学の学生が選定し、残りの10句についても学生が読み句の制作を行いました。

また、絵札についても子どもから大人まで楽しめるイラストを聖徳大学で制作し、平成28年度に「食育かるた」が完成しました。製品化されたかるたは市内保育所、幼稚園、小学校等で活用され、普及を進めてきました。



## 2 レシピコンテスト

家族と一緒に地元産の食材を使用した料理を考え、実際に調理することにより、地産地消\*への理解・関心を高め、食の大切さを見直し、食を通じた家族のコミュニケーションを醸成することを目的に実施しました。

299 作品の応募があり、書類審査で 10 作品を選考し、平成 28 年 1 月 28 日に、2 次審査として実際に調理をしていただきました。その成果品の一つとして、レシピ集を作成し、本市ホームページ上で公開しています。



## 3 松戸食育まつり

食の大切さを見直し、のぞましい食習慣について学んでもらうことを目的に、子どもとその保護者を対象として平成 28 年度は、6 月 18 日(土)、平成 29 年度は、6 月 10 日(土)に開催しました。

清涼飲料水の糖度測定コーナーや歯みがき指導コーナーなど、体験しながら食について学べるコーナー、食育劇の観覧、聖徳大学と協働で制作した「松戸市食育かるた」体験コーナーなど、子どもから大人まで楽しみながら食育を学べる「松戸食育まつり」を実施しました。



## 4 農業体験

種まきから収穫、試食までの一連の流れを経験することにより、地域でとられる食材の魅力を知り、日々の食生活は自然の恩恵の上に成り立ち、食事に至るまでに生産者を始めとして多くの人々の苦労に支えられていることを実感することを目的に「農業体験」を実施しました。

|              |                     |              |                     |
|--------------|---------------------|--------------|---------------------|
| 開催日<br>(H28) | 【1回目】平成28年5月14日(土)  | 開催日<br>(H29) | 【1回目】平成29年5月14日(日)  |
|              | 【2回目】平成28年7月10日(日)  |              | 【2回目】平成29年7月16日(日)  |
|              | 【3回目】平成28年8月27日(土)  |              | 【3回目】平成29年8月27日(日)  |
|              | 【4回目】平成28年10月29日(土) |              | 【4回目】平成29年10月15日(日) |
| 場所           | 21世紀の森と広場 みどりの里     |              |                     |



## 5 既存イベントの拡充

「食育」を周知するため、市で実施しているイベントで展示による食育の啓発だけでなく「箸を使った豆運び」「350g野菜摂取量クイズ」など体験型ブースを実施することにより、食について、より楽しみながら学べるよう、イベントの拡充を図っています。

### 【松戸まつり】

|              |                   |              |                   |              |                   |
|--------------|-------------------|--------------|-------------------|--------------|-------------------|
| 開催日<br>(H27) | 平成27年<br>10月4日(日) | 開催日<br>(H28) | 平成28年<br>10月2日(日) | 開催日<br>(H29) | 平成29年<br>10月8日(日) |
|--------------|-------------------|--------------|-------------------|--------------|-------------------|

### 【松戸モリヒロフェスタ】

|   |   |              |                   |              |                     |
|---|---|--------------|-------------------|--------------|---------------------|
| — | — | 開催日<br>(H28) | 平成28年<br>10月8日(土) | 開催日<br>(H29) | 平成29年<br>11月3日(金・祝) |
|---|---|--------------|-------------------|--------------|---------------------|

### 【まつど大農業まつり】

|              |                      |              |                      |              |                      |
|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|
| 開催日<br>(H27) | 平成27年<br>11月23日(月・祝) | 開催日<br>(H28) | 平成28年<br>11月23日(水・祝) | 開催日<br>(H29) | 平成29年<br>11月23日(木・祝) |
|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|

### (3)モデル事業の評価

#### ○基本目標1. 食の大切さを見直し、のぞましい食習慣を身につける

| モデル事業                       | 実績値   | 評価   | 課題  |
|-----------------------------|---|--|---|
| レシピコンテスト<br>(平成28年<br>1月実施) | 応募 281名<br>作品 299作品<br><br>・うち給食採用<br>2作品<br>・レシピ集作成                | 地元産の食材を使い、親子でオリジナルレシピを考案することで、世代を越えて地元の野菜への理解・関心が高まり、食の大切さを見直す機会となった。                        | 作成した松戸産野菜を使ったレシピ集を活用し、地元食材の理解・関心を高めてもらうため、今後もイベント等での普及啓発が必要である。 |
| 松戸食育まつり<br>(平成28年<br>6月開催)  | 保護者 154名<br>子ども 144名<br><u>来場者計 298名</u>                            | 様々な視点から捉えた食育ブースを体験してもらうことで、子どもから大人まで食育を楽しみながら学ぶきっかけにつながった。                                   | 体験型ブースに加え、食の大切さや食習慣について、専門職からの分かりやすい説明も食育の推進には必要である。            |
| 松戸食育まつり<br>(平成29年<br>6月開催)  | 保護者 185名<br>子ども 187名<br><u>来場者計 372名</u>                            | 参加者のほとんどが、食の大切さについて関心を持つきっかけとなったという意見であり、子どもだけでなく大人も食育を学ぶ良い機会となった。                           | 今後、継続的に開催し市民の食育への理解・関心を高めていくために、開催内容や周知方法について更に検討していく必要がある。     |
| 食育かるた<br>(平成29年<br>1月制作)    | 市民等から読み句を公募<br>応募 237名<br>(882作品)<br><br>小学校等への<br>配付 224箇所<br>902部 | 食育についての内容が網羅されたかるたを、学官協働で制作し、市内の児童施設等で有効に活用されている。制作過程やかるた普及活動がマスコミに取り上げられるなど、少しずつ周知がされてきている。 | 子どもへの活用だけではなく、大人にも活用してもらえようような、普及方法等を検討する必要がある。                 |

○基本目標 2. 地域でとられる食材の魅力や食の成り立ちを学ぶ

| モデル事業   | 実績値                          | 評価   | 課題   |
|---|------------------------------|--|--|
| <p><b>農業体験</b><br/>(平成 28 年<br/>5 月～10 月<br/>計 4 回実施)</p> | <p>応募者 29 名<br/>参加者 29 名</p> | <p>くわを使った畑作りから、種まき、除草、収穫まで普段できない体験となり、地元で採れる野菜の種類や農作物の成り立ちを学習できた。<br/>収穫までには時間を要し体力も使うことを体験し、生産者の苦勞を知ることができた。</p>                      | <p>参加者が食の成り立ちを学ぶ機会としては効果は高かった。農業を体験することにより、食に対する理解が深まるような方法を検討する必要がある。</p> |
| <p><b>農業体験</b><br/>(平成 29 年<br/>5 月～10 月<br/>計 4 回実施)</p> | <p>応募者 50 名<br/>参加者 33 名</p> | <p>前回、体験していない子どもに参加してもらっているが、前回と同様に学びの機会となり、天候によっても農作物の成り立ちに影響があることを体験できた。<br/>また、学生ボランティアの参加により、学生自身も農業体験を通して食育の理解・関心を持つきっかけとなった。</p> | <p>市民農園や農家での農業体験、学生による運営など、その体験方法の検討が必要である。</p>                            |
| <p>食育かるた制作</p>  | <p>再掲</p>                    |  |  |
| <p>レシピコンテスト</p>   | <p>再掲</p>                    |  |  |



○基本目標3. 選食力\*を養い、よくかんで食べ、心も体も健やかに

| モデル事業  | 実績値    | 評価   | 課題  |
|--|--------|--|---|
| <b>「松戸版食事バランスガイド*」配布</b><br>・平成28年度、29年度<br>(松戸食育まつり、松戸まつり、松戸モリヒロフェスタ)<br>・平成28年度<br>(まつど大農業まつり) | 2,304名 | 各イベントにおいて、1日に何をどれだけ食べたらよいかの目安となるガイドを多くの市民に配布し、市民の健康づくりに活用できるよう啓発を行なった。 | 配布したものを興味を持って読んでもらうためには、専門職からポイントをアドバイスするなど、声かけによる啓発をするなどの検討も必要である。 |
| <b>「くらしの豆知識」配布</b><br>・平成28年度<br>(松戸食育まつり)   | 100名   | 食物アレルギーや食品表示*など、見たことはあるが内容は知らない、といったことについて、冊子の配布により周知・啓発を行なった。         |   |
| <b>350g 野菜計量クイズ</b><br>・平成28年度、29年度<br>(まつど大農業まつり)   | 840名   | 1日に摂取が必要な野菜量をクイズ形式で体験し、実際の量を目にすることで摂取量を学ぶ機会となった。                       | 1日に必要な摂取の量の啓発はできたが、栄養バランスを考えた摂取の啓発の検討も必要である。                        |
| 松戸食育まつり  | 再掲     |  |   |
| 食育かるた制作  | 再掲     |  |   |

○全体評価

モデル事業を実施する中で、イベントの開催により「食育」について関心を持つきっかけになっているとの評価はできるが、食の理解・関心を深められるよう継続的に食育活動を普及していく必要がある。食育は、一朝一夕に根付くものではないため、イベントの開催や啓発活動など、できることからコツコツと継続していくことが重要である。